

# 令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

## 再評価対象事業

道建一3 道路改築事業  
(主)佐々鹿町江迎線  
(楠泊～矢岳工区)

事業主体 長崎県

再評価  
の理由 再評価後変更(事業費・工期)

(主)佐々鹿町江迎線 (楠泊～矢岳工区) L=2.20km W=6.0(9.75)m



# 1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	備考
		着工	完了			
当初 (H25新規)	—	H25	H32	11.0	1.36	【工事概要】 延長2.20km 幅員6.0(9.75)m
土木部内報告 (H29年度)	事業採択後 5年経過時の 土木部内報告	H25	H32	13.0	1.09	【当初評価からの変更概要】 工事内容見直しによる事業費増額
第1回審議 (R2年度)	事業採択後 6～9年目 (事業費・工期)	H25	R5	16.5	1.12	【当初評価からの変更概要】 工事内容見直しによる事業費増額 及び工期延長
第2回審議 (R4年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H25	R8	23.5	1.02	【前回評価からの変更概要】 用地取得難航による工期延長 工事内容見直しによる事業費増額
第3回審議 (R7年度)	再評価後変更 (事業費・工期)	H25	R13	29.5	1.01	【前回評価からの変更概要】 用地取得難航による工期延長 工事内容見直しによる事業費増額

## 2. 目的・事業概要・これまでの経緯

### ◆目的

主要地方道佐々鹿町江迎線は、北松半島の西海岸を周回する幹線道路であり、当該地域は生産量が日本有数の「いりこ」をはじめとした水産物の産地で、当該区間はこれらの運搬経路となっている。

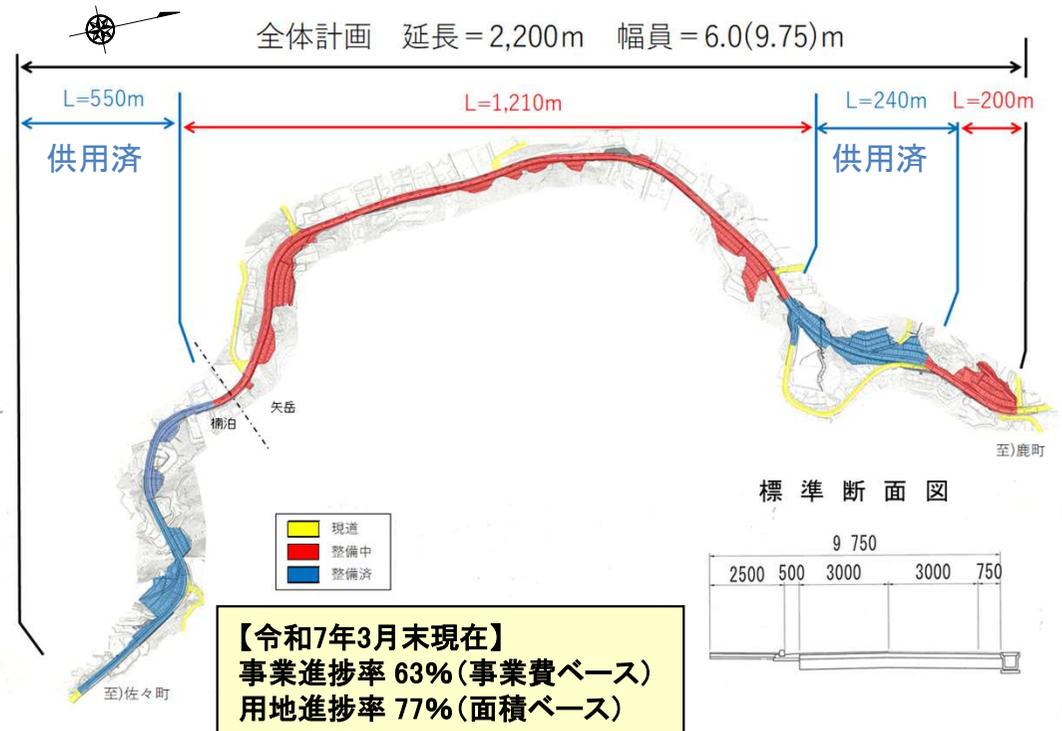
しかしながら、幅員狭小で、急カーブが連続しており大型車同士の離合も困難な状況にあることから、通行車両の円滑で快適な通行を確保し、産業支援及び安全安心な生活道路の確保を目的に整備するものである。

### ◆事業概要

計画延長等	L=2.20km
幅員	W=6.0(9.75)m
計画交通量(R22)	3,360台

### ▼事業経過

平成25年度	事業化
平成25年度	用地買収着手
平成26年度	工事着手
令和6年度末現在	790m供用開始済



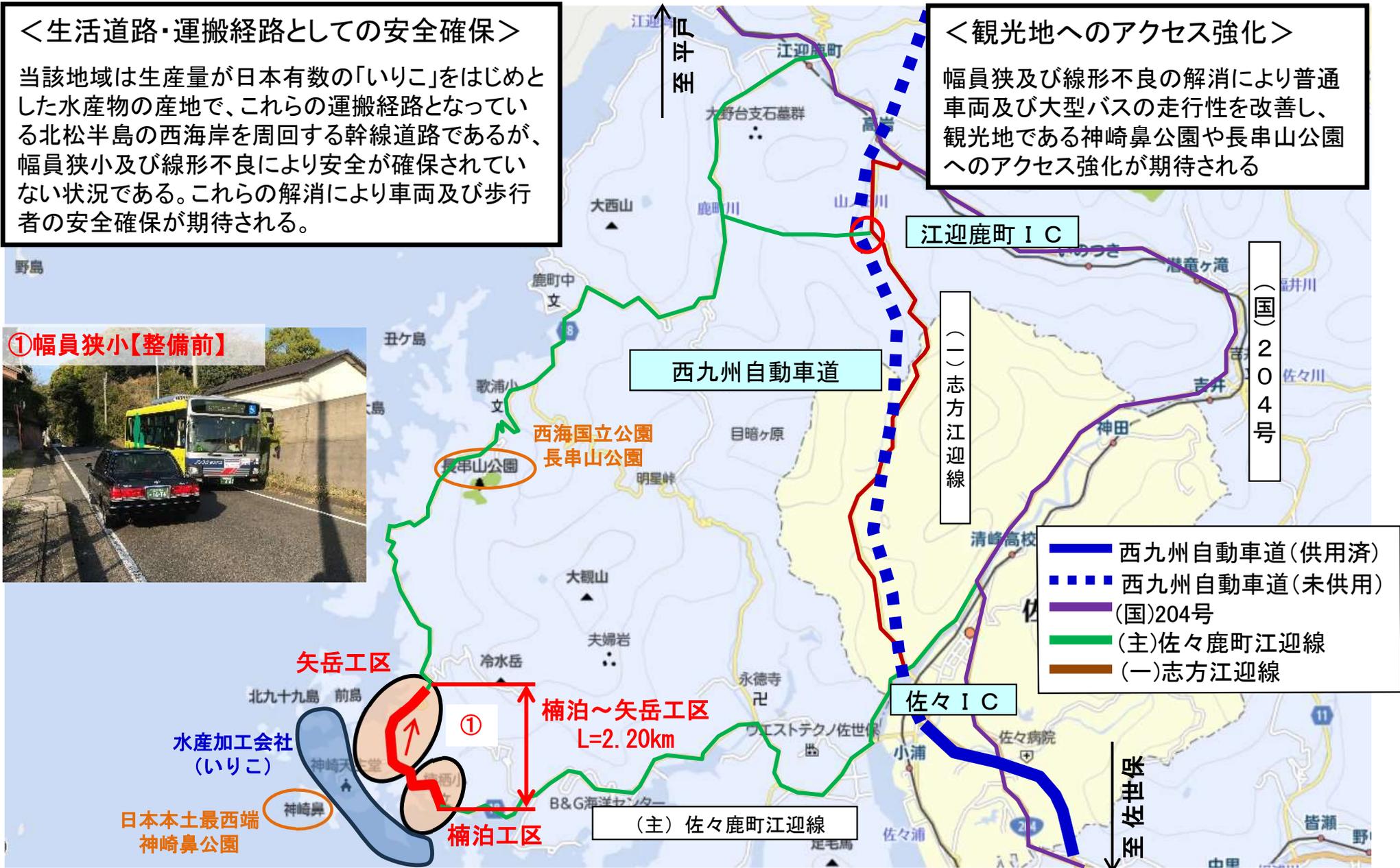
# 3. 事業の効果・必要性

## <生活道路・運搬経路としての安全確保>

当該地域は生産量が日本有数の「いりこ」をはじめとした水産物の産地で、これらの運搬経路となっている北松半島の西海岸を周回する幹線道路であるが、幅員狭小及び線形不良により安全が確保されていない状況である。これらの解消により車両及び歩行者の安全確保が期待される。

## <観光地へのアクセス強化>

幅員狭及び線形不良の解消により普通車両及び大型バスの走行性を改善し、観光地である神崎鼻公園や長串山公園へのアクセス強化が期待される



## 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

**【事業費増】23.5億円(前回) ⇒ 29.5億円(今回)**

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①斜面崩壊の対策工法の追加	約+2.0億円	掘削の施工中に斜面崩壊が発生し、当該箇所の隣接民地に被害が発生 ⇒被害拡大による現道や民地への影響防止のため、対策工法の追加
②工法の変更	約+3.0億円	斜面崩壊が発生したことにより、切土法面箇所の過年度の地質調査結果を再精査 ⇒風化の進行した軟弱な地盤が確認され、斜面崩壊を防止するため、法面对策工法の追加
③その他	約+1.0億円	社会情勢変化による資材・労務費の単価上昇など
計	約+6.0億円	



# 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

事業費増の内容	増額	主な増額理由
①斜面崩壊の対策工法の追加	約+2.0億円	掘削の施工中に斜面崩壊が発生し、当該箇所の隣接民地に被害が発生 ⇒被害拡大による現道や民地への影響防止のため、対策工法の追加

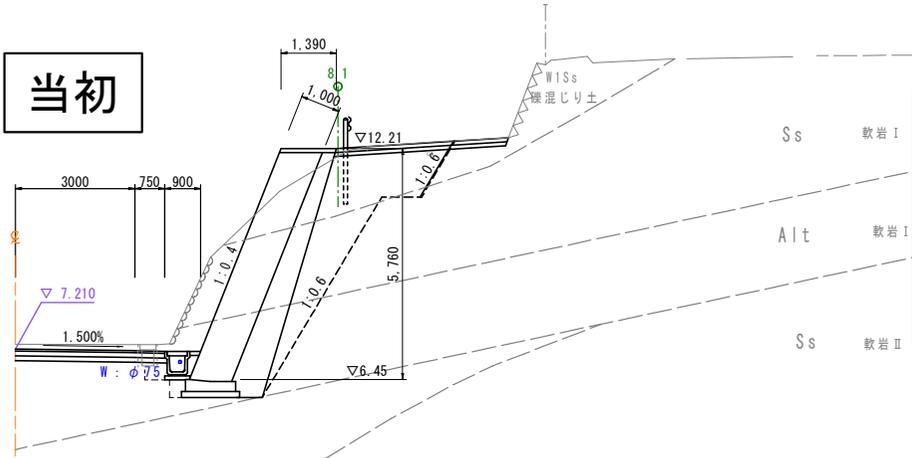


写真1 斜面崩壊による地層のズレ

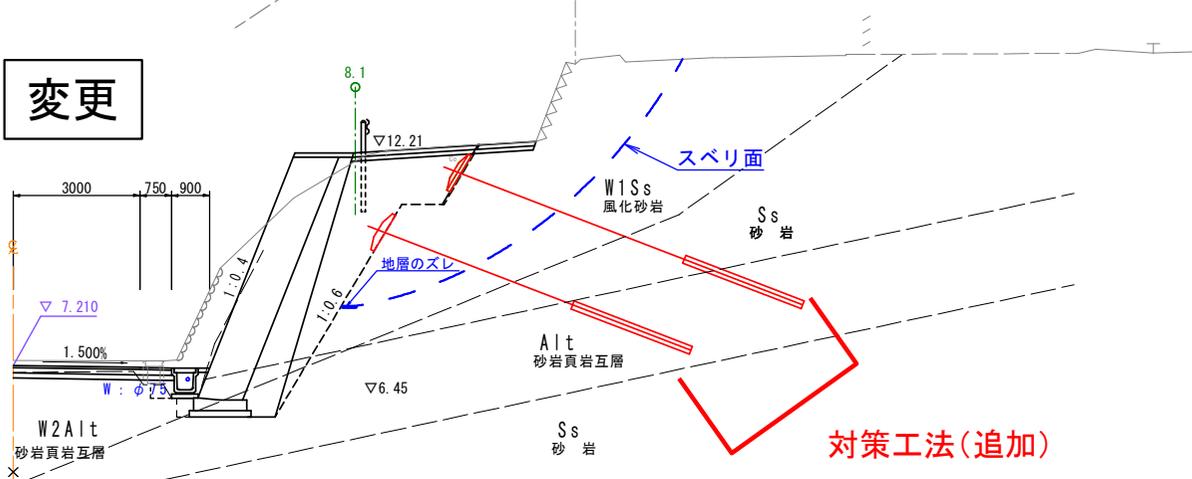


写真2 モルタル吹付のひび割れ(床掘り面)

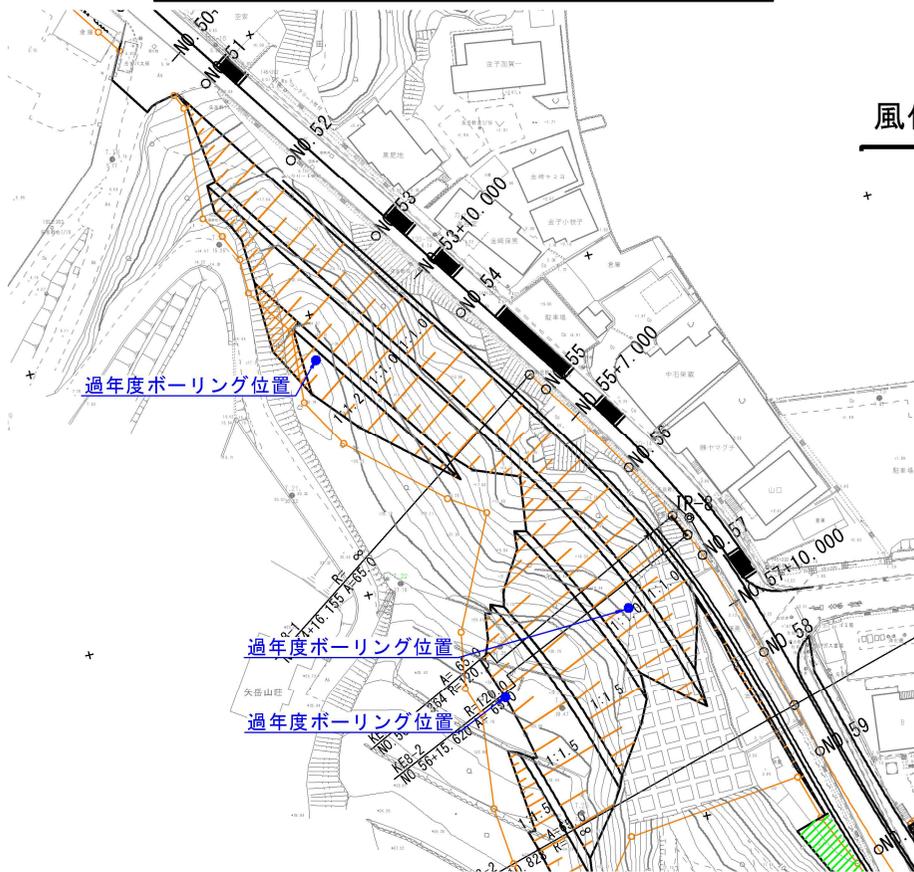
### 発生要因

- ・擁壁床掘りの影響により、風化砂岩の地層から斜面崩壊が発生
- ・当初は崩壊箇所前後で実施した地質調査の結果より設計
- ⇒斜面崩壊後に当該箇所を追加で地質調査した結果、**当初想定より風化が進行した軟弱な地盤が要因**と推測

# 4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

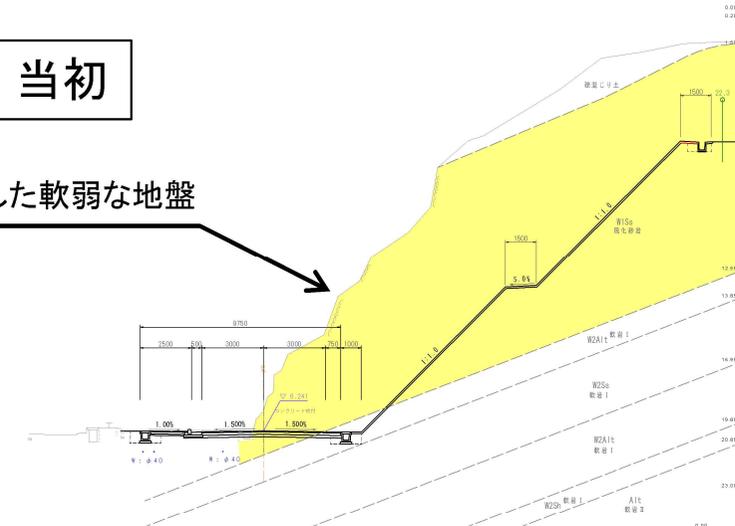
事業費増の内容	増額	主な増額理由
②工法の変更	約+3.0億円	斜面崩壊が発生したことにより、切土法面箇所の過年度の地質調査結果を再精査 ⇒風化の進行した軟弱な地盤が確認され、斜面崩壊を防止するため、法面对策工法の追加

ボーリング調査位置 平面図

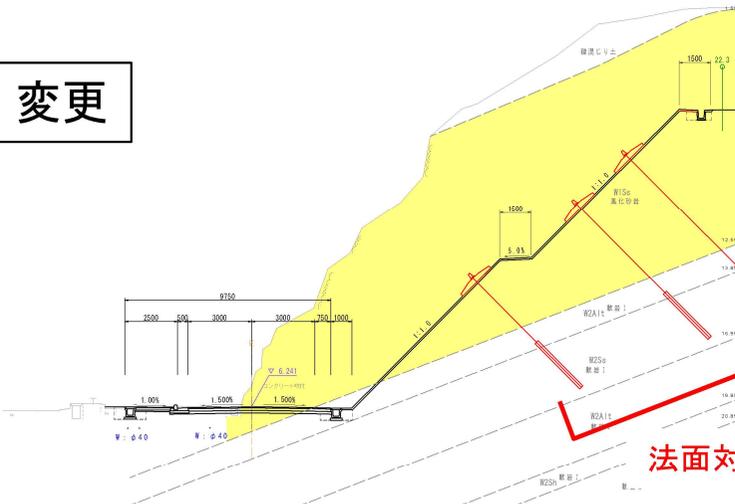


当初

風化の進行した軟弱な地盤



変更



法面对策工法(追加)

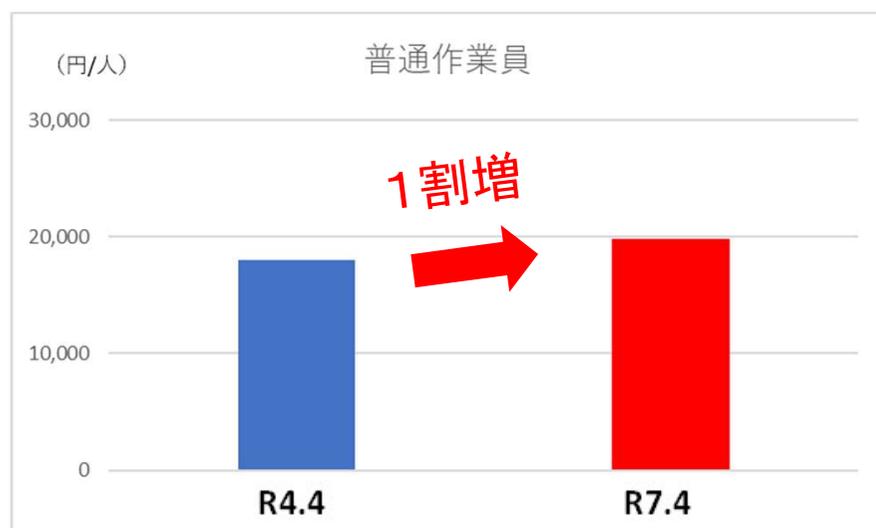
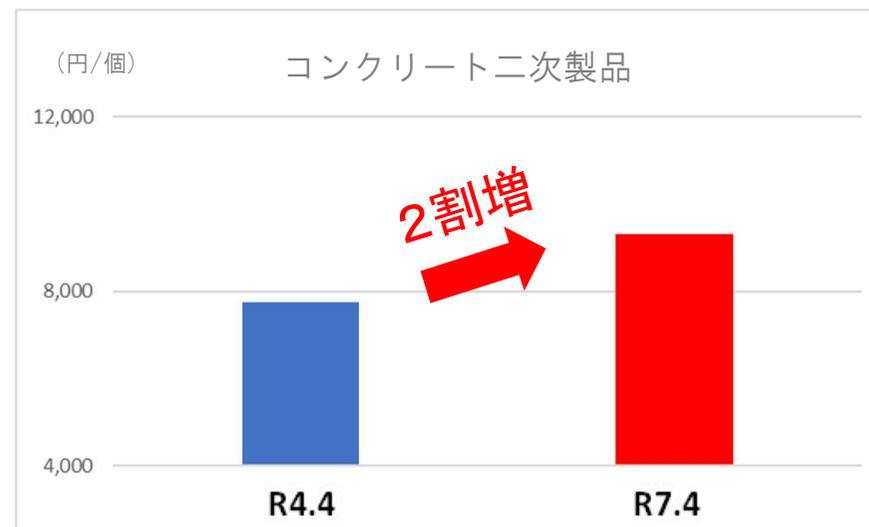
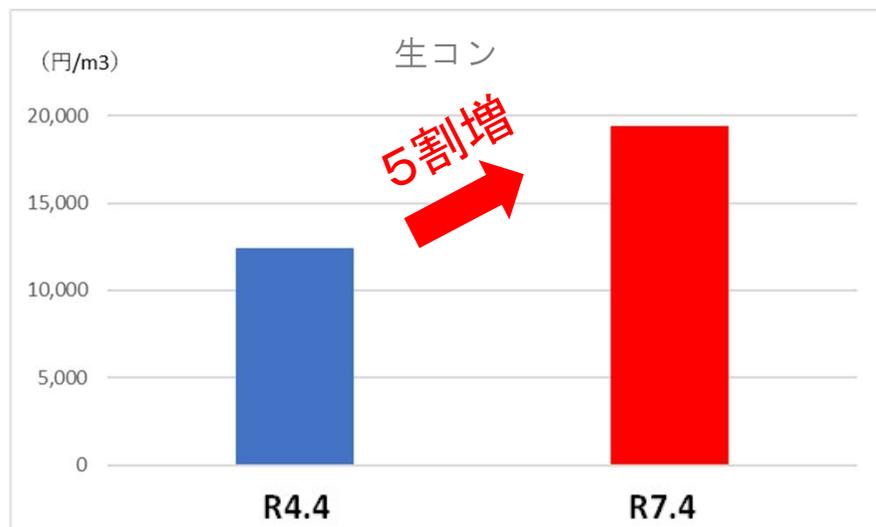
## 検討内容

- ・斜面崩壊箇所と同様の風化砂岩の地層が当該箇所を確認(過年度地質調査の結果より)

⇒ 設計検討の結果、**斜面崩壊が懸念されるため、法面对策工法を追加**

## 4. 事業の進捗状況(事業費の増加)

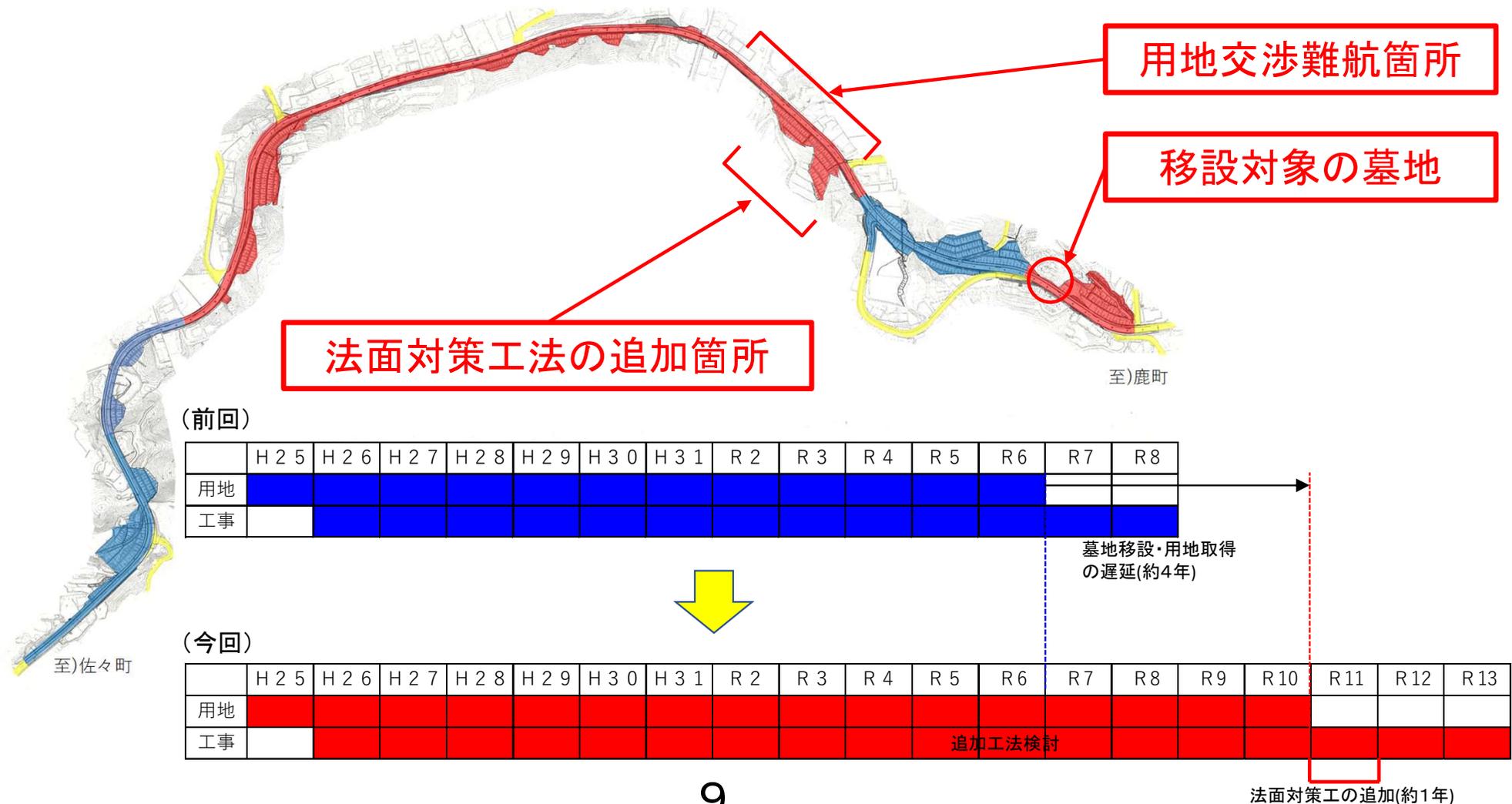
事業費増の内容	増額	主な増額理由
③その他	約1.0億円	社会情勢の変化による資材・労務費の単価上昇など



# 4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

## 【完了工期】 R8(前回)→R13(今回)

- ・本計画に影響する墓地の移設先の搜索難航による延期(佐世保市および地元自治会等と協力し、移設先を搜索中)
- ・用地交渉における協議の難航による延期
- ・法面対策工法の追加に伴う工事量の増加による延期

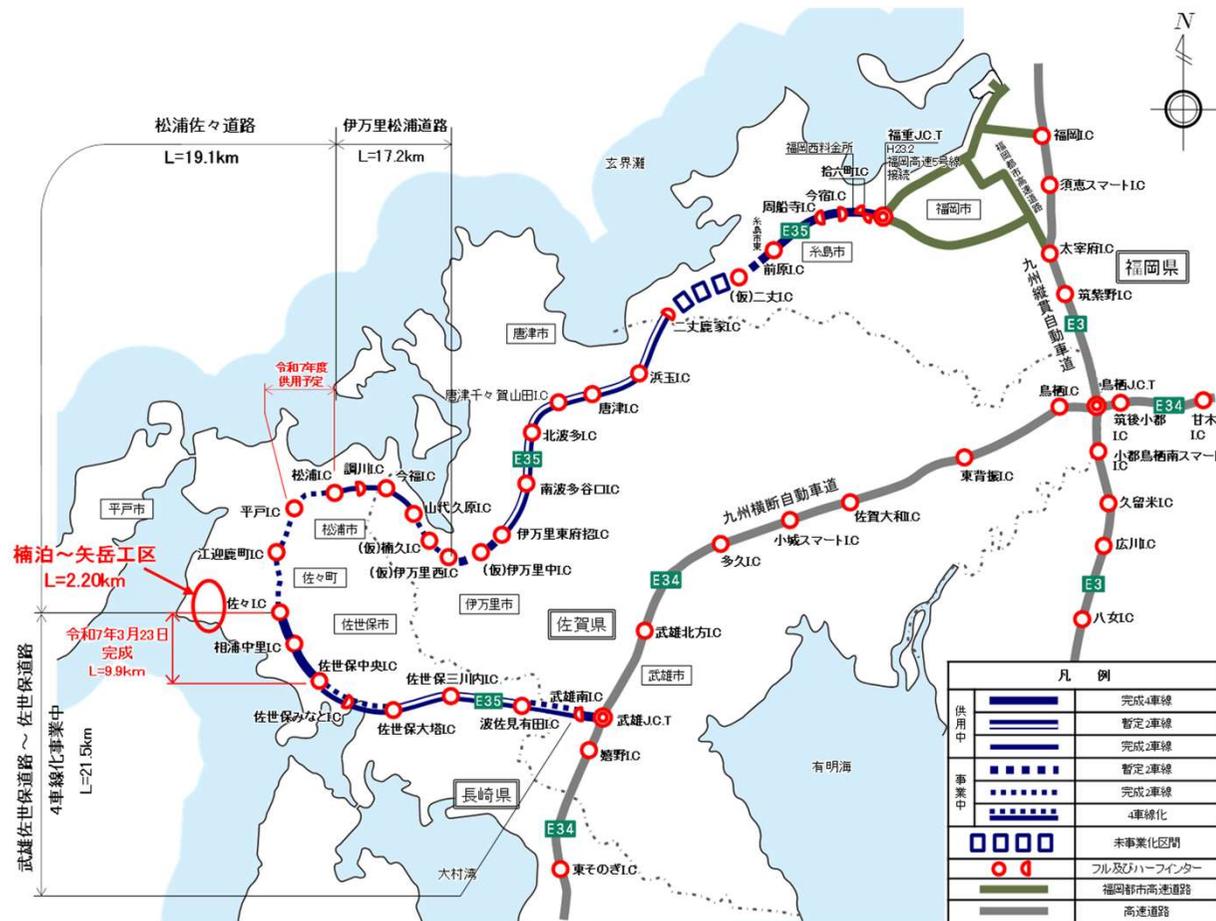


# 5. 社会経済情勢等の変化

西九州自動車道、今福IC～調川IC間が平成29年11月に、調川IC～松浦IC間が平成30年12月に供用開始された。現在、松浦IC～佐々IC間について整備中であり、令和7年度には松浦IC～平戸IC間が供用予定となっている。

また、令和7年3月に佐々IC～佐世保中央IC間の4車線化が完成している。

西九州道路が全面開通することで、当該地域へのアクセス向上や交流人口の増大による県北地域の産業・経済・文化の更なる発展が期待されている。



## 6. 事業の投資効果

### ◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和4年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	3.48 = 24.17億円 / 6.95億円	3.06 = 25.83億円 / 8.45億円
全事業	1.02 = 24.17億円 / 23.72億円	1.01 = 32.57億円 / 32.27億円

#### [費用]

- ・道路整備に要する事業費、道路維持管理に要する費用

#### [便益]

- ・走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少便益

#### [プラス要因]

- ・費用便益分析マニュアルの改訂  
→原単位(価格)の増加

#### [マイナス要因]

- ・事業費の増
- ・工期の延長

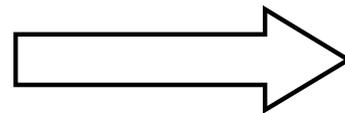
### ◆ B/Cでは計測できない効果

- ・緊急輸送道路の防災機能強化

## 7. 対応方針(原案)

- ◆ 楠泊～矢岳工区は、主要地方道佐々鹿町江迎線における延長2.2kmの未改良区間であり、産業支援及び安全安心な生活道路の確保を目的に整備するものである。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで63%[18.5億円/29.5億円]であり、用地進捗率は77%となっている。(令和7年3月末現在)
- ◆ 「佐世保市」から整備促進を要望されている
- ◆ 事業費の増額、期間の延長はあるものの、費用対効果が見込まれる。

対応方針  
(原案)



継続